

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 13年5月 ～改善が続く雇用情勢

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

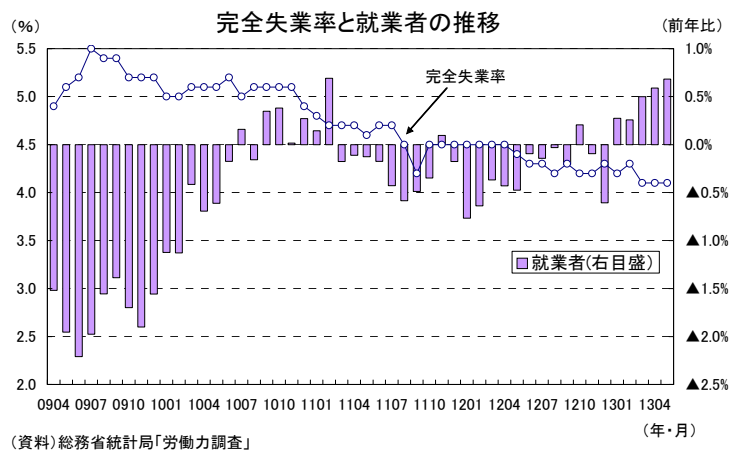
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 改善が続く雇用情勢

総務省が6月28日に公表した労働力調査によると、13年5月の完全失業率は前月から横ばいの4.1%となった（QUICK集計・事前予想：4.1%、当社予想は3.9%）。

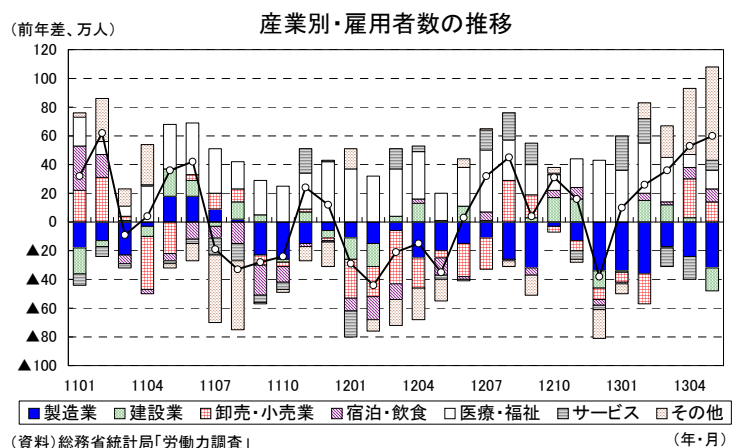
季節調整済の就業者数は前月から2万人増と小幅な増加にとどまったが、原数値の就業者数を前年に比べると1月の17万人増から5月には43万人増まで増加幅が拡大している。また、労働需給をより敏感に反映する雇用者数（原数値）の増加幅は、1月の10万人増から5月には60万人増まで拡大している。

15歳以上人口は減少を続けているが、労働力率の上昇が続いているため、労働力人口は2月以降、前年比で増加を続けている。労働力人口の増加と失業者数の減少が両立していることは、雇用情勢が実態として改善していることを表したものと見える。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業は前年比▲32万人減（4月：同▲24万人減）と21ヵ月連続の減少となり、減少幅は前月よりも拡大した。鉱工業生産はすでに回復の動きが明確となっているが、雇用の増加につながるまでには至っていない。

その他の産業では、卸売・小売業が同14万人増（4月：同27万人増）と2ヵ月連続の増加となり、4月に増加幅が大きく縮小した医療・福祉の増加幅が若干拡大した（3月：31万人増→4月：9万人増→5月：13万人増）が、建設業が前年比▲16万人減（4月：3万人増）と4ヵ月ぶりに減少した。

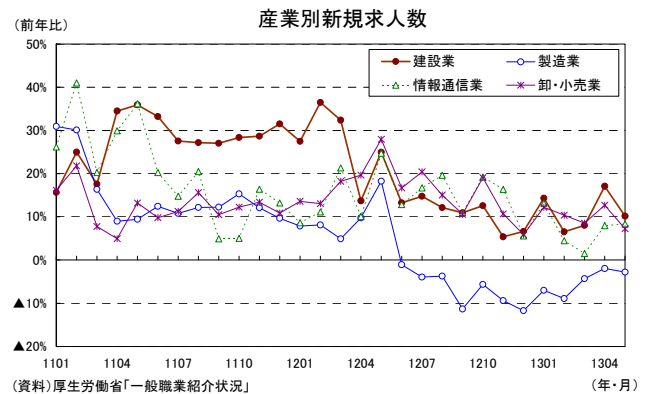
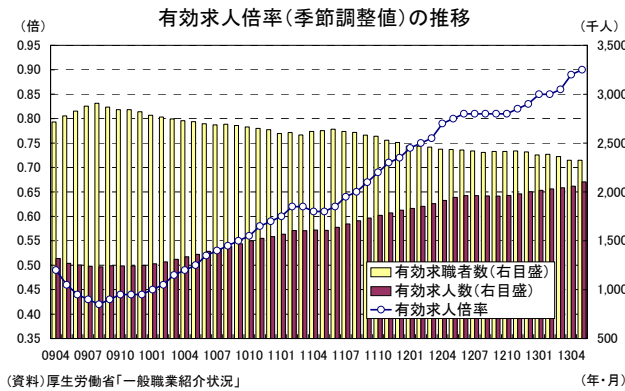


2. 製造業の新規求人は減少が続く

厚生労働省が6月28日に公表した一般職業紹介状況によると、13年5月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント上昇の0.90倍となった(QUICK集計・事前予想:0.90倍、当社予想も0.90倍)。有効求職者数が前月比0.0%の横ばいとなる中、有効求人数が前月比2.2%の高い伸びとなった。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.02ポイント上昇の1.42倍となった。新規求職申込件数は前月比0.6%と4ヵ月ぶりに増加したが、新規求人数が前月比2.1%とそれを上回る高い伸びとなった。

新規求人数を産業別に見ると、建設業(前年比10.1%)、卸売・小売業(前年比7.2%)は高い伸びを続けているが、製造業は前年比▲2.8%と12ヵ月連続の減少となった。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。